

ピンワーク実習による布および衣服への興味と関心

——高校生を対象として——

今 井 裕 子

Interest and Concern about the Textiles and Clothes by Pin Work Practice

——Targeted at in Case of High School Students——

Yuuko IMAI

Key words : ピンワーク Pin work, 実習授業 practice class, 高等学校家庭科 High school Home Economics, 教材 teaching materials, 被服教育内容 Educational contents of clothing

1. はじめに

高等学校家庭科における被服実習では、主に被服製作が取り上げられ、1学期間を費やして1着仕上がる状況にある。被服製作に苦手意識を抱く児童・生徒も、ファッションとしての被服には関心が高い。デザイン画制作が着装イメージを視覚化する手法として取り入れられており、生徒が興味を持って参加する授業である。しかし、デザイン画は教師側に高感度の感性が求められ、それ以上に表現する技術力が必要なため、誰でも指導できるという領域ではない。

また、高校までに扱う素材は綿やポリエステルブロードやギンガムといった平織が多く、フォーマルな装いに使用されるシルク風合いのサテンやツイードのような生地は、教科書に出てくるが、実際に手に触れたり着用した経験の少ない。このような環境では製作する被服のイメージを表現することは困難である。

このことから、高等学校家庭科被服教育の中に、家庭科担当教師による指導が可能で、着装イメージを膨らませる力を育てる実習教材の開発が必要であると考えていた。

平成17年度日本家政学会被服構成学部会主催の公開講座「楽しいものづくり、創造性育成と技の伝承」に実行委員として携わった際、ピンワークのワーク

ショップに楽しそうに参加する高校生の様子を見た。また、同席していた知己の高校教師から、面白そうだが、自分には指導できない、という感想を伺った。著者は本学ディスプレイ演習の中でピンワークを指導した経験を有するので、本学高大連携事業の一環として高等学校へ出張授業が可能であることを伝えた。そして、「専門的知識・技術を持つ地域の社会人の特別非常勤講師」派遣依頼となった。

本研究では、ピンワークを含む授業実践について、高校生の興味・関心、評価などの面から検討するとともに、高等学校家庭科への授業内容を提案することとした。

2. 高等学校での出張授業内容

出張授業は、広島県立高等学校の総合学科において年1回、専門的な知識・技能をもつ外部講師の授業を受け、より発展的な学習を行う目的で、平成18年度と19年度の2回授業を実施した。

2-1 対象生徒

広島県内の高等学校総合学科「被服製作」選択者
平成18年度11名および平成19年度7名

2-2 実習日

平成18年11月13日および平成19年9月10日

2-3 授業計画

題名：ピンワーク—布と遊ぶ—

内容：

- (1) 講師製作ドレス紹介（5分）
- (2) ドレスの構成と原型の組み立てとの関係（10分）
教師実演
- (3) ドレス素材（薄物地：サテン、ジョーゼット、オーガンジー、レースなど）を知る（15分）
- (4) 布を扱う基礎を知る（20分）
ピンワーク基礎の教師実演，アン・ビエの生徒練習
- (5) ピンワークによるドレスシルエット作成（40分）
2～3人一組によるグループ実習
- (6) まとめと片づけ（10分）
ピンワーク作品の鑑賞，サテン生地たたみ方

2-4 配布資料

ピンワークの基本的な方法¹⁾として、アン・ビエ、ドゥブル・ビエ、ドレープ、ギャザリング、タッキングを記載したプリントを作成し、配布した。

2-5 準備物

- (1) ワンピースドレス（著者製作）
- (2) 成人女子衣服原型（不織布製）
- (3) ドレス用布（Y幅 1～3m）
- (4) ピンワーク用生地
 - ・名称：アセテートサテン（朱子織）
 - ・初年度：45cm 正方の布 15枚
92cm 幅5m 7枚および3.5m 1枚
すべて、講師が持参した。
 - ・2年目：92cm 幅5m 7枚は、実施高校が準備した。
- (5) ピンワーク用ピンおよび人台6体は、実施高校が準備した。2年目は高校側で人台を1体追加していた。

2-6 ピンワーク布の選定理由

ピンワークでは、生地の種類により扱い方の難易度が異なり、作品の表情も変わるため、生地選びは重要

である。今回はアセテートサテンを使った。一般にサテン地は、浮き糸が長いめしなやかで、ドレープを工夫すると、光の反射により生地の持つ色から白色までの、生地の表情を変えるグラデーションが楽しい。また、曲げに対して抵抗する力があるので、布の張りが出て、チュールのような補助生地を使用しなくても立体的なふくらみが出易いため、初心者でも扱いやすい生地である。

さらにサテンの中でもアセテートサテンは、光をよく反射すること、曲げに対して抵抗する力があること、適度な生地の厚みがあること、色の種類が豊富で、安価で購入しやすいことから、高校生を対象にしたピンワーク実習を行うにあたり、アセテート素材のサテン生地を選択して使うこととした。

3. 授業実践の検討方法

感想文およびアンケートにより授業実践の検討を行った。なお、授業の様子は、高等学校家庭科担当教師がデジタルカメラで撮影した。

3-1 アンケートについて

アンケートは平成19年に実施し、その項目は、原型組立、布見本（ドレス素材）、ピンワーク（アン・ビエとドレスシルエット実習）とした。

各項目について「楽しかった・普通・楽しなかった」の中から1つ選択した上で、その項目をもっと知りたいと思った生徒のみ、「もっと知りたい」を選択させた。多項選択肢回答は、「楽しかった」2点、「普通」1点、「楽しなかった」0点として数値化した。

アンケートの最後には自由記述欄を設けた。

3-2 感想文について

感想文は高等学校より提出された平成18年8名分と19年7名分について、内容をカテゴリー化し、分析を行った。

4. 結果と考察

4-1 授業の実際

4-1-(1) ドレス紹介について

自己紹介を兼ね、持参したドレスを、人台に着せながら、ワンショルダードレスの特徴を説明した。

- 1) 両肩のあるドレスは重みが両肩に均等にかかるが、ワンショルダードレスは一方の肩だけに重みがかかり、シルエットが崩れやすい。

2) 持参したドレスは、肩紐のない側のパネルラインとサイドシームラインの2箇所の内側にウエストまでライクボーンが縫いつけており、この下端にベルトをつけている。このウエストベルトを締めることにより、ドレスの重みをウエスト位置で支え、シルエットの崩れを防いでいる。このように、ドレスは見えない場所に工夫していることを、説明した。

4-1-(2) ドレスの構成と原型の組み立てとの関係

ドレスを題材に、成人女子の衣服原型がどのように組み立てられているのか、さらにデザインイメージをいかにドレス原型に反映させるか人台を使って実演した。実践内容は次のとおりであった。

- 1) 新文化式成人女子衣服原型をピンで組み立て、人台にのせた。
- 2) ドレスを隣に並べ、衣服原型上に胸部デザイン線をボディラインテープで引いた。
- 3) ウエストおよび背面のデザイン線も引き、ドレスの型紙を完成させた。

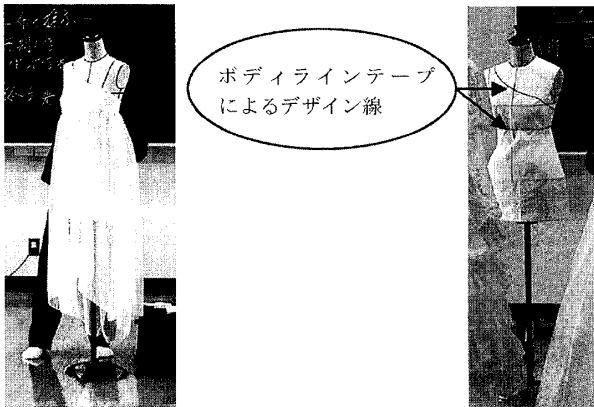


写真1 ワンショルダードレス 写真2 衣服原型

4-1-(3) ドレス素材を知る

ドレスで汎用性の高いレースやジョーゼット、サテンバックを紹介し、実際に手に触れてもらった。さらにチュールやオーガンジーを使って、柔らかいサテンバックに張りを持たせる実演を筆者がした。

4-1-(4) 布を扱う基礎を知る

布の折り方や巻き方について知ることを、ピンワークの基礎と位置づけて、次の内容を生徒が実習した。

- 1) 45 cm 正方の布を使って、アン・ピエの手法を用いひだを寄せ、ドレープを作った。

- 2) ドレープを巻きながら整え、コム・デ・ローズを作り、作品を完成させた。

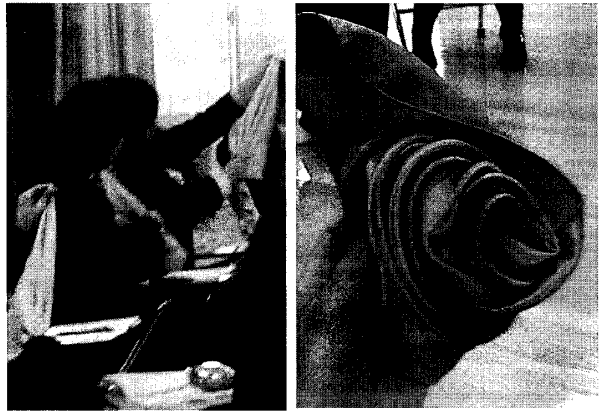


写真3 アン・ピエ練習 写真4 アン・ピエでコム・デ・ローズを完成

平面の布から立体の衣服を作るためには、布の物性を知ることが大切になる。ここで扱った内容は、布をたたんだり、ねじったり、つまんだり、巻きつける作業で、布の物性を知るために重要と考える。

4-1-(5) ピンワークによるドレスシルエット作成
サテン生地をピンワークで、人台上にドレスを着ている様なドレスシルエットを実演した。

次に生徒は、グループに分かれて、配布資料をみながら、ドレスシルエットをピンワークで仕上げた。

製作途中を写真5, 6, 9に示し、その完成作品が写真7, 8, 10である。

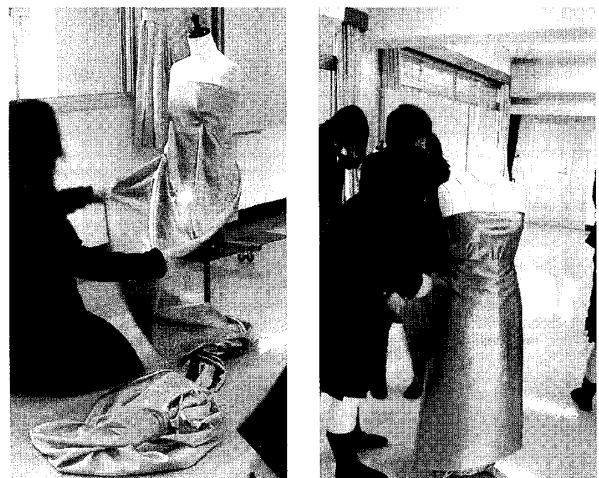


写真5 写真6
ピンワーク実習風景 (1) ピンワーク実習風景 (2)



写真7

ピンワーク完成例 (1)



写真8

ピンワーク完成例 (2)

4-2 授業効果

授業効果として次の5つが挙げられる。

- (1) 生徒の様相：通常授業とは違う内容で外部講師ということもあり、生徒は興味深く授業を受けていた。
- (2) 生徒作品：ピンワーク実習では1枚の布を人台に巻きつけ待針で止め、ドレープやタックのあるドレスができあがった（写真7と写真8）。
- (3) 家庭科担当教師への支援：教師も実習部分に参加し、基礎的な技術を習得した。



写真9

高校教師参加実習風景



写真10

高校教師参加の完成ドレス

学生作品は崩さず、展示した。

- (5) 授業の発展2：出張授業2年目には、対象高校で人台1体を追加購入し、7体とするとともに、サテン布地5mを7枚購入した。

4-3 授業内容の検討

アンケート結果を表1に、感想文を表2にまとめた。

4-3-1 授業評価について

アンケートでは、すべての項目で高い評価を得た。原型組み立てについては平均1.9点、布見本やピンワーク実習においては、全員から楽しいとの評価を得た。

また、アン・ピエなどで花を作ることや1枚の布でドレス作品を完成させたこと、自分が完成させるところが良かったなどピンワークについての自由記述が多かった。

4-3-2 もっと知りたい内容について

今回行った授業内容は、ほとんどの高校生にとって初めて見る、あるいは初めて実習するものであった。

原型組み立てと布見本についてもっと知りたいという生徒数は7名中3名であり、ピンワークについて、生徒の半数以上の7名中5名がもっと知りたいと思っていた。

このことから、ピンワークは、1枚の布から形あるものを完成させる、という体験は新鮮であり、体験要求は高いと考えられる。

ピンワーク授業内容の原型組み立ては、教師の実演のみであり、布見本を生徒は手に触れただけであった。サテン以外のドレス用布を使ったピンワーク作品もあれば、ドレスのイメージができ、ドレス素材の特性を理解しやすく、もっと興味が湧いたかもしれない。

100分という限られた時間では、内容を絞り込み、布に触れ、平面の布から形を作り出すデザイン指導に重点をおいて着衣イメージを膨らませる力を育てる授業内容にすることが大切と思われる。

- (4) 授業の発展1：対象高校では、出張授業初年度に文化祭にピンワークの技術を使った作品を展示した。出張授業2年目には、授業中に完成した

表1 授業内容に関するアンケート結果（平成19年）

生徒 No.	ドレス原型組み立て (評価点) 注1)	ドレス原型組み立てについて もっと知りたい 注2)	布地の知識 (評価点) 注1)	布地の知識(ドレス素材) についてもっと知りたい 注2)	ピンワーク(アン・ビエと ドレスシルエット実習) (評価点) 注1)	ピンワーク(アン・ビエと ドレスシルエット実習) についてもっと知りたい 注1)	自由記述
1	2		2	○	2		アンビエやダブルビエで花などが作れることが良かった。
2	2		2		2	○	自分が何かを作って完成させるところが良かった。
3	2	○	2	○	2	○	布1枚でドレスができた。
4	2		2		2		どれもとても楽しくできてよかった。
5	2		2		2	○	バラを作るのがとても楽しかったです。
6	1		2		2	○	リクエストに答えてくれたりしてうれしかった。
7	2	○	2	○	2	○	1枚の布であんなドレスのようなことができることにびっくりしたし、とても楽しかった。
合計	13点	2	14点	3	14点	5	アンビエやダブルビエで花などが作れることが良かった。
平均	1.9点		2.0点		2.0点		

注1) 評価点は、「楽しかった」を2点、「普通」を1点、「楽しくなかった」を0点とした。

注2) 「○」はもっと知りたいと思った場合のみ記入

4-3-3 授業内容への感想について

感想文の内容を次の6つのカテゴリA～Fに分けることができた。

カテゴリA「素材の知識」

例：布の名前もいろいろあるんだと知りました。

たくさんの布の種類を教えてもらいました。

カテゴリB「ドレスへの興味」

例：ウェディングドレスの実物をはじめてみてとてもきれいで感動しました。

カテゴリC「ピンワーク技術」

例：待ち針の刺し方もあったりしてとても勉強になりました。

カテゴリD「達成感・満足感」

例：完成したときはとても嬉しいと思いました。

カテゴリE「楽しさ」

例：どれもとても楽しくできました。

カテゴリF「次への意欲」

例：機会があったらバラ造りに挑戦してみたい。

授業の内容では、全員が、ピンワーク技術に関する事柄をあげており、ピンワーク技術への関心が高かったことがわかった。また、達成感・満足に関する内容と楽しさを表す文章がそれぞれ15名中13名、また、次への意欲をうかがわせる内容も15名中10名あり、1回のピンワーク実習を通して、高校生が充実した時間を持つことができたと感じていることがわかった。

このように、「ピンワーク実習」によって、高校生には短期間に自分たちだけで1つの形を作る楽しさと喜びを表出させたことが明らかとなった。ピンワーク実習は完成度にこだわればドレスの製作と同様に際限がないが、今回の授業実践により、高校生が時間内に作品をまとめることは可能であることも実証された。

表2 高校生のピンワーク実習に関する興味・関心について

受講生 No.	カテゴリー						記 述 内 容	
	A 素材の知識	B ドレスへの興味	C ピンワーク技術	D 達成・満足感	E 楽しさ	F 次への意欲		
平成 18 年	1		○	○	○	○	○	ピンワークを見たのは2回目です。実際に先生がピンワークをされているところを見ると、カッコいいなと思いました。自分たちで体験できてとても楽しく、ここをこうしたらこうなるなどいろいろ考えて学ぶことができました。卒業生の方が作ったウェディングドレスを着させていただいて、とても良い経験をしたと思っています。普段着ている服とは違う着心地とうれしさで、今にも結婚式をするのではないかという思いでした。今回の授業をきっかけにいろんなことを知り、学んでいきたいと思いました。
	2	○	○	○	○	○	○	今回のピンワークの授業は一週間くらい前からとても楽しみにしていました。実際にピンワークをして、1枚の布であんなにかわいいドレスなどができてびっくりしました。私も作ってみて、とても楽しくてもっとしたいと思いました。少ない時間でしたが、なかなか体験することができないことが体験できてとてもうれしかったです。布の種類や名前もいろいろあり、とても興味がわきました。ウェディングドレスも見せていただき、生徒が作ったと聞くととてもびっくりしました。私も作ってみたいと思いました。将来着てみたいと思いました。また、機会があり時間があれば、また安芸高校にいらしてください。
	3		○	○	○	○		この授業を受ける事になるまで、ピンワークのことをぜんぜん知らなくて、人台に待ち針を使って直接布を形にしていってとてもすごいと思いました。自分たちだけで、ピンワークをしてみて、やっぱり難しいし、簡単にできることではないんだなと思いました。待ち針の刺し方もあったりしてとても勉強になりました。1枚の布がドレスの形になっていくのを見て感動しました。持ってきていただいたウェディングドレスはとてもきれいで、すばらしかったです。
	4			○	○	○	○	初めてのことでドキドキしながら楽しくさせてもらいました。人台に布をまくときいろいろ頭で想像できるのにそれを表現するのが難しく大変でした。でも時間がたつにつれて自分の表現ができるようになりました。ピンワークをする中で、すてきなピンワークを作ることができました。今度は一人で人台を使ってやってみたいと思いました。一番自分が楽しくできたのは、布でバラを作ったことです。布1枚でこんなことができるんだと思って楽しかったです。自分は卒業したら専門学校に行きたいと思っているので、これから役立てたらいいと思います。少ない時間だったけど楽しかったです。
	5	○	○	○		○	○	私はピンワークは全然知らなかったもので、始まる前からとてもわくわくしていました。そしていざ始まったら結構難しく、布の名前もいろいろあるんだと知りました。また、ウェディングドレスも実物を初めてみてとてもきれいで感動しました。細すぎて私には着れませんが、着たかったです。5mの布でドレスを作るのはとても楽しかったです。バラを私も挑戦してみましたが無理でした。やっぱり練習しないと無理なんだと思いました。機会があったらバラ造りに挑戦してみたいと思います。
	6			○	○	○		ピンワークというものを、初めて体験させていただき、とても楽しかったです。たった1枚の布を、自由に使って服を作っていくのは、とても難しかったです。でも、いろいろアドバイスをいただいて自分的にはとてもすてきな作品ができました。とてもうれしかったです。
	7			○	○	○		最初はバラの作り方を教えていただきました。その次に説明を受け実際に5mの布でピンワークし、1枚のドレスを作るのは、結構難しかったです。思うように布を扱うことができなくて大変でしたが、友達と協力してがんばりました。待ち針が手にチクチクさざったりしましたが、貴重な体験ができたので良かったです。
	8	○	○	○	○	○		はじめに、たくさんの布の種類を教えてくださいました。柔らかい布や、光っている布などがあって、表だけじゃなくて裏を使うこともできる布もあるのでとても驚きました。大きな布のたたみ方は少し難しかったです。手作りのウェディングドレスを見せてもらって作るのはすごく大変そうでした。でも完成した時はとても嬉しいと思います。1枚のきれいな長い布を使ってピンワークを体験しました。待ち針をとめるのはなかなかうまくいきませんでした。ピンワークは初めてすることだったので、楽しく授業ができて、とても良い体験ができたと思いました。
計	3	5	8	7	8	4		

平成 19 年 10 月	1	○	○	○	○	○	○	ファッションのことに興味があるので、とても楽しく勉強することができました。服の作り方や布の素材にはいろいろな種類があることも知りました。待ち針の打ち方も勉強になりました。卒業生の作品を持ってきていただいて私も作りたくなりました。
	2	○		○	○		○	丁寧な指導で熱心に取り組めました。そしてたくさんの知識を学びました。ドレスを待ち針で作るのはとても難しかったですが、完成した時の達成感は素晴らしいものでした。私が目指しているのは短期大学でいろんなことを学びたいと思いました。一番興味があるのがファッションなので、たくさん実習してみたいと思いました。
	3	○		○	○	○	○	布の説明を受けて、サテンにもいろいろな種類があることを知って大変勉強になりました。一枚の大きな布を裁断せずにするピンワークでは、ドレーピングやアンビエ、ダブルピエを教わりましたが、とても難しく思いました。アンビエから花を作って背中への辺りにつけ、余った部分も名前のまわりに飾りつけて完成したときはとてもうれしかったです。今回学んだことを今後役に立てたいと思います。
	4			○	○		○	服を作るのにもいろいろな技術が必要でコーディネートの仕方ひとつで、いろんなデザインができることを知りました。布一枚を作ってドレスができることにとても驚きました。どの生地とどの生地をあわせるかで、できばえが違い、どの素材を作るかで、見栄えが違うので驚きました。本当にためになりました。いつか自分でウェディングドレスでも作ってみようと思います。
	5		○	○	○	○	○	ピンワークという授業をすると聞いて正直どんなことかわかりませんでした。しかし、実際に教えていただきとても楽しいなと思いました。一枚の布を巻いたり、少し工夫するだけであんな素晴らしいドレスなどができると驚きました。だんだんやっていると、自分が考えているドレスができてとても楽しかったです。布を少し工夫するだけでお花に見えたりすることがとてもすごいと思いました。普段着る洋服にも使えそうだと思います。私はおしゃれをすることが好きなのでその点でも生かして生きたいと思いました。また機会があれば教えてください。とても楽しかったです。
	6	○		○	○	○	○	ピンワークという単語すら聞いたことのない私にとっては、正直難しいと思いました。しかし、実際に来てくださったとき、製図の方法など見ているうちにだんだん楽しさが溢れてきました。実技では、一枚の布だけであんなに華やかなドレスができるなんて予想もしていなかったので感動と驚きでいっぱいになりました。もっともっと色々なことを知りたいと思いました。もっと他のこともたくさん教えてください。
	7			○	○	○		初めての体験だったのでなかなか思うようにいかなくて、先生にはとても迷惑をおかけしました。作品ができていくうちに、少しずつコツを覚え、とても楽しい授業でした。
計	4	2	7	6	5	6		
合計	7	7	15	13	13	10		

5. 大学教員による高等学校出張授業内容の提案

本学教員の専門を生かして、高校生に被服に興味・関心をもってもらうことは、社会貢献事業として有意義であると考えます。今回実施したアンケートや感想文から高校での授業として、次の項目の100分授業を提案したい。

5-1 提案授業の内容

題名：布と遊ぶ（ピンワーク）

授業目標：

- (1) ドレス用布への関心を高める
- (2) 布の織り特性を踏まえた扱いを知る
- (3) ピンワークの基本技術を習得する
- (4) ピンワークによるドレスシルエットイメージを創造し、ドレスシルエットを創作する

授業担当者：高大連携事業による大学教員講師

対象者：高等学校「被服製作」選択高校生

内容：

- | | |
|--------------------------|-----|
| (1) 講師製作作品紹介 | 10分 |
| (2) ドレス用布の紹介 | 10分 |
| (3) ピンワークによる紹介布使用ドレスの紹介 | 15分 |
| (4) ピンワーク基礎によりコム・デ・ローズ作成 | 15分 |
| (5) ピンワークによるドレスシルエット作成 | 40分 |
| (6) 作品観賞と片付け | 10分 |

5-2 内容の扱い

高等学校家庭科担当教員が技術習得後、将来的に授業をする場合は、(2) ドレス用布を使用したドレスの紹介を省略する。あるいは、ドレス用布を、リアルク

ローズ用布（綿ブロードやポリエステル・綿混紡ブロードなど）を加えて、布の種類によるドレスシルエットの相違を理解させる。

(3) では、生徒の使用するサテン布を含め、ドレス用布で教師が製作した作品を数点提示し、生徒がドレスシルエットをイメージし易くする。

(4) では、扱い易い大きさの45 cm 正方の布を使用する。

(5) では、布を曲げピンを通すピンの扱いを理解し、布の落下防止方法や人台への固定方法を学んだ後、5 mのサテン布を使用したドレスシルエットの作成をさせる。人台を使用することで、身体の形を意識させている。また、5 mの布を扱うことにより、布の重さを感じ、シルエットを作るため布を伸張することにより、経、緯、バイヤス方向の布特性を実践的に理解する。デザインしたシルエットに近づけるため布を扱う力の加減を知る。シルエットの作成中にグループ間を回り、生徒の工夫を評価し、シルエット作りを助言し、時間内にシルエットがまとまるように指導する。

(6) では、グループごとに作成したドレスシルエットのデザインを説明させ、お互いの作品を観賞する。片づけでは、ピンの取り残しがないよう注意するとともに、布の片づけ方を指導する。

5-3 授業内容の位置づけ

提案授業内容は、必修科目「家庭総合」あるいは「家庭基礎」ではなく、「被服製作」を選択した生徒を対象に設定した。

これは提案した授業内容が、高等学校学習指導要領第3章 専門教育に関する各教科 第5節 家庭²⁾における内容に関連しているからである。表3として、高等学校学習指導要領「被服製作」および「ファッションデザイン」における関連内容の抜粋を載せた。特に、ファッションデザインの内容(2)のウについては、布などの材料を使ったピンワークやディスプレイなどを扱うことを記している。本提案(5)ピンワークによるドレスシルエット作成は、この内容の補完、あるいは発展として位置づけることができる。

表3 高等学校学習指導要領「被服製作」および「ファッションデザイン」における関連内容(抜粋)

第3章 専門教育に関する各教科
第5節 家庭
第2款 各科目
第10 被服製作
2 内容
(3) 被服材料の種類と特徴
ア 被服材料の種類
イ 被服材料の特徴
(4) 洋服の製作
イ デザインと材料の選定
第11 ファッションデザイン
2 内容
(2) ファッションデザインの発想と表現法
ア デザインの発想
ウ 各種材料による表現
エ ファッションデザイン実習

6. ま と め

著者が講師として、高等学校出張授業を実施し、高校生の興味・関心、評価などの面から検討した。

今回実施したのは、高等学校家庭科選択科目「被服製作」であり、外部講師という特別授業ではあった。その結果、高校生から、ピンワーク技術への関心とドレスシルエット作成が楽しいとの評価があった。

衣服に関心がある生徒に対して、より被服に興味や関心をひきだせたものと考えられる。

高等学校家庭科被服教育に、着装イメージを膨らませる力を育てる実習教材として、高等学校での「ピンワーク授業」100分間の導入を提案したい。

なお、高等学校家庭科担当教師による指導を可能にする方法を検討する必要がある。

次報では、今回報告した結果をうけ、「ピンワーク実習」の授業改善や短期大学生や大学生への両者の興味・関心、評価などを検討する。

謝 辞

本報文作成に当たり、映像を提供くださった広島県立安芸高等学校寺島先生に深謝いたします。

引用文献

- 1) 笹原紀代著 文化ファッション講座「ピンワークディスプレイの基礎」23頁から77頁 文化出版局
- 2) 文部科学省, 高等学校学習指導要領 第3章 専門教育に関する各教科 第5節 家庭編 (平成11年3月告示, 14年5月, 15年4月, 15年12月一部改正)

Summary

As a special teacher, I gave an extra lesson in Home Economics at high school.

It was decided a lesson title of a pin work practice from what students are able to cultivate the imagination of dressed style.

I have surveyed what high school students showed interest and concern in this lesson.

As results, the following things were understood. High school students have the interest in pin work technology, and they have pleasure creation of a dress silhouette was pleasant.

I'd like to propose that a pin work practices is effective as the teaching materials on clothing class of Home Economics in high school.